

整備新幹線の早期完成・開業について

現在、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームにおいては、工期短縮に向け、財源確保について鋭意、議論を重ねていただき、必要な財源を確保し、1日も早く整備スキームを見直すことが重要です。

リニア中央新幹線については、東京・大阪間の全線同時開業の実現に向け、自由民主党は、名古屋・大阪間の建設資金3兆6千億円の負担を政府に求めており、最終的に利子分を国が負担しても、その額は最大1兆8千億円と報じられています。

一方、整備新幹線の新規着工区間は、地方も建設費を負担しているにもかかわらず、整備計画決定から開業まで半世紀もの期間を要する計画となっています。

このため、整備新幹線全線の一日も早い整備に向け、北海道新幹線新函館（仮称）・札幌間、北陸新幹線金沢・敦賀間、九州新幹線武雄温泉・長崎間（肥前山口・武雄温泉間の複線化事業を含む。）の大幅な工期短縮を図るとともに、北陸新幹線敦賀・大阪間のフル規格による早期整備を実現し、その開業年度を明らかにしなければなりません。

整備新幹線の早期全線整備を優先課題として、貸付料の新規着工区間の前倒し活用や算定期間の延長をはじめ、公共事業費の拡充など積極的な財政措置を講じ、速やかに実現されるよう要望します。

平成26年6月11日

北海道知事	高橋はるみ
石川県知事	谷本 正憲
福井県知事	西川 一誠
佐賀県知事	古川 康
長崎県知事	中村 法道